

# 京舞 井上流の 誕生

岡田万里子著

▼A5判・五〇〇頁／定価九、四五〇円(税5%込)  
ISBN978-4-7842-1672-7

京都の花街祇園に伝承され、特色的な型や伝承作品が話題にされる京舞井上流、日本舞踊のなかでも一際異彩を放つこの流派は、どのように誕生したのか。本書は、近世から近代にいたる流派の歴史を検証し、伝承作品群の成立背景を考証する。堂上・花街文化、そして、能、人形浄瑠璃、歌舞伎といった他の芸能の影響を確認しつつ、その豊饒な母胎——近世後期京都における芸能的世界の解明に挑む。



## ○内容目次○

### 序論

問題の所在／研究史概観／本研究の方針

### 序章 先行研究とその問題点

歴史研究の始点／三世井上八千代の聞書と歴史叙述の展開／従来の歴史叙述とその情報源

### 第一章 初世井上八千代と創造の基盤

出生／堂上方への出仕／近衛家女房の役割／堂上方との交流／舞踊師匠としての出発

### 第二章 二世井上八千代と流派の形成

出生／現存する番組と出演者／伝承曲群の成立／名取式の挙行／後継者の問題

### 第三章 三世井上八千代と伝承の確立

出生／敦賀行きと結婚／都をどりへの参画／女紅場の設立と舞踊教師への就任／三世井上八千代が継承した井上流伝承曲

## \*\*\* 第二部 井上流の舞踊 \*\*\*

### 序章 言説の誕生とその傾向

機械的な舞という言説／肯定的な転化／流派内における特色の認識

### 第一章 井上流と撰家の芸能

はじめに／万歳と舞楽／能楽／曲馬と舞踊／浄瑠璃／盆踊りと江戸歌／撰家の芸能の実態

### 第二章 井上流と花街の芸能

はじめに／舞稽古さらえ／大坂・名古屋への興行／年中行事と芸妓の舞踊／祇園会ねりもの趣向／花街の芸能の特色

### 第三章 井上流と能

はじめに／野村三次郎と町方の能／井上流と花街の能／井上流の本行舞と女能

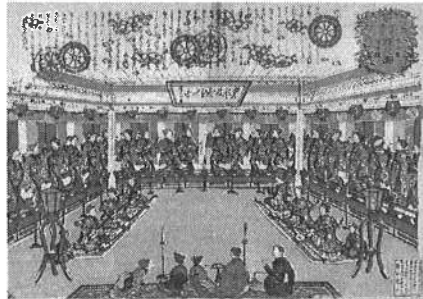
### 第四章 井上流と人形浄瑠璃

はじめに／人形遣いと交流／花街と女義太夫／井上流の人形ぶり／井上流の義太夫節伝承曲と人形浄瑠璃

### 第五章 井上流と歌舞伎


はじめに／江戸における歌舞伎の模倣と舞踊の稽古／京都・大坂における歌舞伎と舞踊／京都・大坂の歌舞伎と井上流の伝承曲

### 結論



思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723  
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	京舞井上流の誕生	本体9,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1672-7	
お名前	tel				
	e-mail				
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				
			本書HPのQRコード		書店番線印

\***風俗絵画の文化学** 都市をうつすメディア

松本郁代・出光佐千子編

中世から近世における風俗絵画のメディア性に着目し、そこに描かれなくなったものの持つ意味や享受者の視点、都の社会における聖と俗の姿、風俗絵画に表された芝居空間や行事のかたちを年代とともにどのように姿を変えたのか、「風俗画」が近代に至りいかなる解釈を得て「風俗画」となり得たのか、など様々な視点からアプローチする。

▶A5判・368頁／定価 6,825円

ISBN978-4-7842-1469-3

## 近世上方文化と堺

齋藤利彦著

佛敎大学研究叢書14

従来より盛んである元禄期を中心とした近世上方歌舞伎研究から、少し時代を移した元禄期以降の展開、特に上方歌舞伎が特質を大きく転換した化政期から幕末期の実態を究明する。さらに上方歌舞伎の地域的展開や興行史的検討という観点についても考察するが、こうした課題に取り組むうえで重要な興行地として、堺を取り上げる。

▶A5判・322頁／定価6,615円

ISBN978-4-7842-1608-6

\***花洛(みやこ)のモード** きもの時代

京都国立博物館編

装いの美・華と粋の世界—桃山から江戸時代を通じて服飾の中心となった「きもの」に焦点をあて、小袖・打掛・胴服・羽織・具足下着・振袖・帷子などから笄・簪・髪形、さらには肖像画・洛中洛外図・屏風などに描かれたモードも含めて全225点(オールカラー)を収録。「今様御ひいなかた」(翻刻)と「御用雛形帳」の調査一覧表も併載。

▶A4判・550頁／定価 26,250円

ISBN4-7842-1072-5

## 松花堂昭乗と瀧本流の展開

山口恭子著

山初期、寛永文化の一翼を担った松花堂昭乗の書は近世の書文化を席卷する。昭乗と瀧本流の書について造型的な面のみならず、昭乗の著述した文芸作品、瀧本流の法帖など、文献資料や版本に対する細やかな検討を行うことにより、近世の書道史、出版史、文化史など広範な研究分野に新しい知見を提供する。

▶A5判・356頁／定価 9,030円

ISBN978-4-7842-1559-1

\***京都 高瀬川** 角倉了以・素庵の遺産

石田孝喜著

江戸時代初期に角倉了以・素庵父子によって開削され、京都の中心部と伏見港を結んだ10.5キロメートルの運河、高瀬川。伏見からは淀川を通じて大坂に通じ、さらに西国航路と結ぶ大動脈であった高瀬川の歴史をたどり、舟入や橋の変遷など、多方面から歴史と文化のすがたを描く。図版多数。

▶A5判・250頁／定価 2,310円

ISBN4-7842-1253-1

\***近代京都研究**

丸山宏・伊徒勉・高木博志編

歴史都市・京都は、近代に大きく変わったまちであった——。京都という都市をどのように相対化できるのか、普遍性と特殊性を射程に入れながら、近代史を中心に分野を超えた研究者たちが多数参加し切磋琢磨した京都大学人文科学研究所・共同研究「近代京都研究」の成果である。

▶A5判・628頁／定価 9,450円

ISBN978-4-7842-1413-6

## 近代数寄者のネットワーク

齋藤康彦著

茶の湯を愛した実業家たち

本書は、近代実業家(高橋義雄、根津嘉一郎、小林一三など)と茶の湯に関わる単なるエピソードの紹介ではなく、従来顧みられなかった茶会記録である『茶会記』のデータ分析を通して政界・官界・実業界を横断するネットワークを描出するものである。

▶A5判・322頁／定価 4,200円

ISBN978-4-7842-1603-1

## 近代日本における書への眼差し 日本書道史形成の軌跡

高橋利郎著

毛筆で書かれた肉筆の文字資料が、近代に「書」として位置付けられていく過程を、書道史に関する出版や宝物調査、展覧会の列品、文化財関連の法令から探り、近代における書道史形成の軌跡をたどる。近代数寄者が私的に書跡を鑑賞する場について考察し、彼らを取り巻く文化環境を総合的に理解し、書跡への眼差し影響の大きさを論じる。

▶A5判・304頁／定価 5,040円

ISBN978-4-7842-1595-9

## 風俗絵画の文化学 II 虚実をうつす機知

松本郁代・出光佐千子・彬子女王編

美術史・歴史学・文学・文化人類学等を専門とする研究者が、それぞれの専門性を生かした風俗絵画分析を進め、粘り強く議論を繰り返して生まれた学際的的文化研究。絵画の制作に関わった人々の複雑に絡み合う視線の交錯を文化的に考察し、そこにあらわれた「機知」—虚実を往来する機微や感性の「かたち」—を明らかにしていく15篇。

▶A5判・450頁／定価 7,350円

ISBN978-4-7842-1615-4

## 能勢朝次著作集 [全10巻]

能勢朝次著作集編集委員会編

近世の俳諧に始まり和歌・連歌に及び、遂に中世能楽の源流を究め能楽論の系譜を解析、名著『能楽源流考』を著した博士の全貌を窺う、能勢学の集大成。【構成】第1巻 国文学研究／第2巻 中世文学研究／第3巻 近世和歌研究／第4～6巻 能楽研究(一～三)／第7巻 連歌研究／第8巻 連歌俳諧研究／第9・10巻 俳諧研究(一・二)

▶A5判・平均450頁／揃定価 60,795円

\***近世京焼の研究**

岡佳子著

桃山時代から江戸時代末まで京都で焼かれた焼き物の窯業的な変遷を、文献史料と出土資料によって明らかにし、そこに野々村仁清・尾形乾山・奥田頼川・仁阿弥道八など京焼の名工たちの生涯と作品を位置づけ、近世京都の特質を明確にした。陶業の技術の系譜や産業的な展開、受容層のあり方などの視点から京焼の通史を見直した一書。

▶A5判・434頁／定価 6,615円

ISBN978-4-7842-1558-4

\***見世物研究**

朝倉無聲著

明治以降、芸術になれずに演劇から転落していった見世物をあまたの文獻の中から拾い上げ、歴史的視野と分類の体系を与えた画期的な業績。香具師と芸能との関わり方における芸能の社会性、庶民の娯楽性、盛り場や辻や寺社の境内や河原が果たしてきた意義、見世物小屋自体が持つ「遊び小屋」の幻想性など照射した昭和3年版の復刻。

▶A5判・408頁／定価 7,140円

ISBN4-7842-0684-1

## 京都 伝統工芸の近代

並木誠士・清水愛子・青木美保子・山田由希代編

京都における美術・工芸がどのような変容を遂げたのか。大きく「海外との交流」「伝統と革新」「工芸と絵画」「伝統工芸の場」の視点から、様々なトピックスや人物にまつわるエピソードを取り上げ概観する。口絵・関連地図や、各節には一目で年代を確認できる年表や関連図版を付し、視覚的にわかりやすく解説。

▶A5判・300頁／定価 2,625円

ISBN978-4-7842-1641-3

## みやこの近代

丸山宏・伊徒勉・高木博志編

平安や桃山時代がしばしば話題になる歴史都市・京都は、実は近現代に大きく変わったまちであった——。「近代の歴史都市としての京都」についての基本的な諸問題を多角的に論じ、さまざまな分野の具体的な主題をもとに、近代現代の京都の根本問題を見通す視座を形成しようとする試みの85篇。『京都新聞』の連載を再構成しまとめたもの。

▶A5判・268頁／定価 2,730円

ISBN978-4-7842-1378-8

## 近代茶道の歴史社会学

田中秀隆著

「伝統文化とは近代に自己変革に成功した文化である」との近代茶道史テーゼにもとづき、近代国家の文化的アイデンティティの生成構造面から、茶道が日本の「伝統文化」として認知されるようになった過程を考察する。

▶A5判・454頁／定価 6,825円

ISBN978-4-7842-1377-1

\***鉄道日本文化史考**

宇田正著

日本の近代化のなかで陸蒸気=鉄道がもたらしたものは、はかり知れない。本書では「文化の鏡」としての鉄道をとりあげ、知識人の体験や一般人の認識から民俗・観光(巡礼)・教育との関わりを通して、鉄道が日本人の内的形成に果たした文化的役割を明らかにする。

▶A5判・352頁／定価 5,775円

ISBN978-4-7842-1336-8

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。

電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。